

6/23-29#3:キリストの死の様と復活の様:I.「キリスト・イエスの中へとバプテスマされた私たちはみな、彼の死の中へとバプテスマされた」(ローマ6:3):Aバプテスマは形式や儀式ではありません。それは私たちとキリストとの一体化を表徴します。**B**バプテスマを通して、私たちはキリストの中へと浸され、キリストを私たちの領域とします。それによって私たちはキリストの死と復活の中で彼と結合されて一となります。**C**私たちは最初の人であるアダムの領域の中で生まれましたが、バプテスマを通して、第二の人であるキリストの領域の中へと移されました。**1コリント1:30**しかし、あなたがたがキリスト・イエスの中にあるのは、神によるのです。このキリスト・イエスは、神から私たちに与えられた知恵、すなわち、義と聖別と贖いとされました。**D**私たちはキリストの中へとバプテスマされるとき、彼の死の中へとバプテスマされます。**E**彼の死は私たちをこの世から、また暗やみのサタン的な力から分離し、私たちの天然の命、私たちの古い性質、私たちの自己、私たちの肉、さらには私たちの歴史全体を終結させました。

II.「こういうわけで、私たちは彼の死の中へとバプテスマされることを通して、彼と共に葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光を通して死人の中から復活させられたように、私たちも命の新しさの中を歩くためです」(ローマ6:4):A私たちの古い人はキリストと共に十字架につけられ、そしてバプテスマされることを通して、私たちの古い人は彼と共に葬られて、死に渡されました。**6**私たちは次のことを知っています。私たちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、私たちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。**B**天然の領域において人はまず死んで、次に葬られます。しかしパウロの言葉は、霊の領域において私たちはまず葬られ、次に死ぬことを示しています。**C**私たちは直接死ぬのではなく、バプテスマを通してキリストの死の中へと入ります。**D**キリストと彼の死は一です。**E**キリストから離れて、私たちは彼の死の中へとバプテスマされることは決してできませんでした。なぜなら、彼の効力ある死の要素は、彼の中に、すなわち、復活した、すべてを含む方の中にだけ見いだされるからです。**F**ローマ6:4の「御父の栄光」は、神性の現れを指しています。**G**バプテスマの後、私たちは復活の中で新しい人になっています。**H**復活は将来の状態だけではなく、現在の過程でもあります。**I**命の新しさの中を歩くことは、今日、復活の領域の中で生活し、命の中で王として支配することを意味します。**ローマ5:17** あふれるばかりの恵みと

あふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。**J**このような生活は、私たちの中のアダムに属するものをすべて対処し、ついには私たちが完全に造り変えられ、キリストのかたちに同形化されるに至ります。

III.「もし私たちが、彼の死の様の中で彼と結合して生長したなら、彼の復活の様の中でも彼と結合して生長するのです」(ローマ6:5):A「彼と結合して生長した」は、有機的な結合を示しており、この結合の中で生長が起こります。それによって一方は、もう一方の命と特徴にあずかります。**B**キリストとの有機的な結合の中で、キリストが経過したものはすべて、私たちの歴史となっています。**C**彼の死と復活は、今や私たちのものです。なぜなら、私たちは彼の中におり、彼と有機的に結合されているからです。これが接ぎ木です。**ローマ11:24** もしあなたが、本来は野生のオリーブの木であるものから切り離されて、栽培されたオリーブの木へと、自然の性質に反して接がれたとしたら、まして本来の枝である者たちは、彼ら自身のオリーブの木へとどれほどよく接がれることでしょう!**D**そのような接ぎ木は、私たちのすべての消極的な要素を排出し、神が創造された私たちの機能を復活させ、私たちの機能を引き上げ、私たちの機能を豊かにし、私たちの全存在に浸透して、私たちを造り変えます。**E**キリストの死の様は、ローマ6:4で述べられているバプテスマです。キリストの復活の様は、4節で述べられている命の新しさです。**F**「彼の復活の様の中で」は、将来の、客観的な復活を指しているのではなく、現在の生長の過程を指しています。**G**私たちはバプテスマされた時、キリストの死の様の中で彼と結合して生長しました。今や彼の死を通して、私たちは彼の復活の中へと生長しつつあります。**H**キリストの死の要素が、彼の中でだけ見いだされるように、キリストの復活の要素も、キリストご自身の中でだけ見いだされます。彼ご自身が復活です。**ヨハネ11:25** 私は復活であり、命である。私の中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。**I**正しいバプテスマを経験した後、キリストの復活の様の中で、私たちは続けて彼の中で、また彼と結合して生長します。これが命の新しさの中を歩くことです。

IV.「キリストの中へとバプテスマされた者はみな」(ガラテヤ3:27):Aバプテスマには四つの面があります。それは父、子、霊の御名の中へとバプテスマされること、キリストの中へとバプテスマされること、キリストの死の中へとバプテスマされること、キリスト

のからだの中へとバプテスマされることです。**マタイ 28:19** だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして。**1コリント 12:13** 私たちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。**B**バプテスマは、悔い改めた人々を彼らの古い状態から新しい状態へともたらし、彼らの古い命を終結させ、キリストの新しい命、またキリストの中にある新しい命をもって、彼らに新しい開始を持たせます。**C**バプテスマには二つの面、見える面と見えない面があります。**1**見える面は水によるものであって、見えない面は聖霊によるものです。**使徒 2:38** すると、ペテロは彼らに言った、「悔い改めなさい。そして、あなたがたの罪が赦されるために、イエス・キリストの御名の上へとバプテスマされなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を賜物として受けます」。**2**その霊による見えない面がなければ、水による見える面はむなしです。水による見える面がなければ、その霊による見えない面は抽象的であり、実行上のもではありません。両方とも必要です。**D**三一の神の中へとバプテスマされることは、キリストの中へとバプテスマされることです。**1**私たちが神の子たちであるのは、私たちがキリストの中にいるからです。私たちがキリストの中にいるのは、私たちがキリストの中へとバプテスマされたからです。**2**キリストの中へとバプテスマされることは、キリストの中にいる道です。**3**私たちはキリストの中へとバプテスマされたので、今や彼との有機的な結合を享受しています。それは私たちの全存在を造り変えることができます。**4**ガラテヤ3章の終わりでパウロが、キリストの中へとバプテスマされて、キリストを着ることについての言葉で結んでいることは意義深いです。**5**パウロがバプテスマについての言葉で結んでいるという事実が示していることは、私たちがキリストの中へとバプテスマされ、キリストを着ることによってのみ、この章で取り扱われていることを経験することができるということです。**6**キリストの中へとバプテスマされた者はみな、キリストを着ました。**7**私たちはキリストの中へとバプテスマされたので、今や私たちが覆うキリストを持っています。**8**一方で、バプテスマにおいて、私たちはキリストの中へと浸し込まれています。もう一方で、バプテスマにおいて、私たちはキリストを着ています。**9**私たちの多くは、私たちがキリストの中へとバプテスマされていることと、彼を私たちの衣服、私たちのおおいとして着ていることとを、力強く証しすることができます。

証私は大学に入学して直ぐにバプテスマされました。私はバプテスマによって、私の古い命を終わらせ、キリストが私の中に住み、キリストを着たのです。しかし、自分自身の中の宗教観念とほとんどクリスチャンがいない日本(カトリック信者は人口の0.4%、プロテスタント0.3%)という過酷な環境の中で、なかなかはっきりと霊的な事実を理解できていませんでした。学校や会社の環境で、自分以外にクリスチャンがいることは期待できず、異邦人の墮落した状態を見る時、一人のクリスチャンとしてその環境にいても何も変えられないと思い、不信仰になっていました。このような過酷な状況下で、聖書を読む中で見出される真理と自分の生活の大きなギャップをどうしたら埋められるのか、と考え始めました。この考えは、台湾の諸召会を訪問した時に、彼らから表現される栄光を見て特に感じました。そして私は次のように考え、祈りました、「**台湾で実行している召会生活が聖書の啓示に従っているなら、日本でも実行できるはずである。難易度の違いはあっても、神の定められた道は、日本でも必ず実行可能である。**」

この負担に従って、自分の召会生活の奉仕とビジネスライフを再考し、一つ一つの問題を祈りました。私は多くの失敗を経験しながらも、主の憐れみと恵みにより、この37年間で、神の定められた道、新しい道(新約聖書に従った集会と奉仕の方法)は日本でも実行可能である(The new way is workable in Japan)ことを少し証明できたと思います。私がこの37年間で学んだ秘訣は、次の通りです：**①日本では、サタンの締め付けが厳しいので、中途半端なやり方では何も得られない、②しかし、キリストと神のエコノミーに対する信仰によって、信者の中に主が生きておられ、信者の上にキリストを着ていること、また信者たちが団体的なからだであることを実際化すれば、サタンの策略に勝ち得て余りがある、③実際に新しい道を実行する時に、すべての事を徹底的に実行する必要がある、④失望せずに、辛抱強く実行し続けながら、学び、実行面の修正を繰り返す、⑤聖徒たちが小さな成功を経験したら、直ぐに全員にシェアする。それは皆が互いに学び、互いに教えるためである、⑥新しい道の実行は、高嶺の真理と神・人の生活がベースになっている。神に従って牧養するため、真理と命の経験の基礎が必要である、⑦サタンに敵対して立つために、からだの中に留まり、聖霊の流れの中で、キリストの勝利に頼るしか他に道がない。****祈り**主が日本のすべての地方召会を、真理と命をベースとした、彼らの神に従った牧養の実行によって、祝福してくださいますように。アーメン!